

12/3 (月)・4 (火) じんずうじほうおんこう 神通寺報恩講

JINZUJI

ご講師 まつつきはくせん 松月博宣氏

福岡県糸島市 かいとくじ 海徳寺 前住職
ほんがんにじはふきょうし
本願寺派布教使



『しんらんしょうにん 親鸞聖人の救われた道は、
わたし この私が救われる道でした。
『ねんぶつもう 念仏申す者の生き方は、
あみだ すべてのことを阿弥陀さまを主語と
い して生きること』 とも 共に聴いてまいりましょう。』

神通寺報

12/1 (土) AM 9:00 ~ ぶつぐみか 仏具磨き&大そうじ

皆様のご協力により、本堂の仏具磨きとお寺の大そうじを行います。
都合の良い時間帯だけでも構いませんので、ぜひお手伝いいただけると
助かります。お昼ごはんを用意してお待ちしております。

12/3 (月) AM 9:00 ~ おとき準備

当日の朝も、皆様のご協力により、おときの準備をいたします。
お手伝いいただけると本当に嬉しいです。お待ちしております。

11:00 ~ 12:50 おときのお振る舞い

1:00 ~ 3:00 法要 (音楽法要・しょうしんげ 正信偈)・ご法話

7:00 ~ 9:00 法要 (しよやらいさん 初夜礼讃)・ご法話

12/4 (火) AM 9:00 ~ おとき準備

お手伝いにお越しいただけると本当に助かります。お待ちしております。

11:00 ~ 12:50 おときのお振る舞い

1:00 ~ 3:00 法要 (じゅうらい 十二禮)・ご法話



カラー版神通寺報はこちらから！→

第300号
(2018年 11月号)
〒506-0021
高山市名田町5-30
明林山 神通寺
住職 朝戸 臣統
0577-32-3614 (TEL/FAX)
asato@jinzuji.com
www.jinzuji.com

神通寺報 配布スタッフの皆様 (敬称略)

不破 朝子・三枝 勝・黒田 はな・中垣 久美子・中澤 一弘・塚本 清洋・永富 登代子・
石垣 美代子・洞口 義武・松尾 衿子・片岡 節子・畠山 正一・松本 文男・阿多野 正昭・
柴田 和子・安藤 礼子・成畑 瑛子・大萱 勝・谷口 忠雄・若田 義隆・千原 繁・原田 尚子・
大村 和弘・中田 敬三・野村 洋子・吉本 敏彦 ※石浦・千島方面配布スタッフ募集中!

※ごみシールが余りましたら、
譲っていただけると嬉しいです。

かならず再び会う

新しい庫裡が完成したと同時に神通寺にやってきた、ボーダーコリーのキリちゃんも十四歳となりました。人間で言えば、もう八十歳を超えた年齢に達しているようです。

若い頃はfrisビーを投げてはキャッチしたり、運動量はハンパなかったのですが、今では階段の上り下りもやっとこさになり、朝夕のお散歩もヨタヨタと歩いています。

今のところ食欲は旺盛で、もうしばらく一緒に暮らしてくれることを願っています。近いうちに別れがやってくるのは避けられそうありません。

そんな私も最近肩を痛め、いわゆる「五十肩」になってしまいました。痛みを抱えながらの日々に、身体の衰え



を実感しています。

久しぶりに同級生と集まった飲み会では、「老眼」と「病気」の話題で盛り上がるようになりました。また、お坊さんの会合でも、もう「若手」ではなく、「ベテラン」として扱われるようになり、戸惑うことも多くなりました。いつまでも若いつもりでいましたが、寄る年波にはなかなか勝てませんね。

☆☆☆☆☆☆☆☆

老いや病、大切ないのちとの別れというのは、つらい現実ではありますが、自らのいのちに向き合う大切な縁をいただくことでもあります。

九月十五日に亡くなられた、女優の樹木希林さんは、二〇一三年に全身ガンであることを世間に公表されました。また、二〇一六年には、新聞広告に登場して、命終えることへの思いを伝えてくださいました。

「死ぬときぐらい好きにさせてよ」というコピーの下に、こう綴っておられます。

かならず再び会う

先立つ方々を思えば、在りし日の面影を懐かしく思うとともに、言いようのない寂しさを覚える。

親鸞聖人は、お弟子に宛てた手紙の中で仰せになる。

浄土にてかならずかならずましまらせ候ふべし

再び会うことのできる世界がそこにある。今ここで、同じ信心をいただき、ともに阿弥陀如来の救いにあずかっている。

だからこそ、かならず浄土に生まれて再び会える確かさを、今よるこいごことができる。

本願の教えに出あえた時、今ここで救われ、再び会うことのできる世界が恵まれる。

「拝読 浄土真宗のみ教え」より。

2年前の新聞広告に登場した樹木希林さん。

「人は必ず死ぬというのに。」

長生きを叶える技術ばかりが進歩して
なんとまあ死ににくい時代になったこと
でしょう。

死を疎むことなく、死を焦ることもなく。

ひとつひとつの欲を手放して、

身じまいをしていきたいと思うのです。

人は死ねば宇宙の塵芥。せめて美しく輝
く塵になりたい。

それが、私の最後の欲なのです」

☆☆☆☆☆☆

希林さんのメッセージに共感と憧れを

抱きながらも、実際には、自らの老・病・死をなかなか受
け入れられないのが、私の現実でもあります。

「ひとつひとつの欲を手放して、身じまいをしていきたい」

ああ、私が苦しむ原因を生み出しているのは、まさにそ
の「欲」であったと気付かされるのです。

ちよつとでも若くありたい。健康でありたい。そんな願
いを少しでも叶えようとしながら日々を暮らしている私が
います。しかし、数ヶ月前には何ともなかった私の肩は、



痛みを伴って身体の衰えを告げています。去年
の私、昨日の私よりも、確実に年を重ねて老い
ているのです。

仏教では、そのようなありようを「諸行無常
のことわり」と示されます。

老・病・死そのものが、苦しみを生み出して
いるではありません。「諸行無常のことわり」
を受け入れられず、いつまでも若さや健康にし
がみつこうとする私の執着、欲望が、苦しみを
生み出しているのです。

同時に、大切ないのちとの別れを受け入れら
れない私のありようが、悲しみを生み出して
るのでした。

☆☆☆☆☆☆

お念仏のみ教えがありがたいなあ、と思うのは、希林さ
んが仰るように、

「死を疎むことなく、死を焦ることもなく」

という人生を生きることができると、お念仏を通
して聞かせていただけることです。死をタブー視すること
なく、自らのいのちに向き合っていけるのです。

ただ、親鸞聖人は、「ひとつひとつの欲を手放して」、執着を離れば救われるのだ、とは仰いません。

いくつになっても素直に老いや死を受け入れられず、欲や苦しみを抱えながら命終えていかねばならない私には、自ら我執を離れて悟りを得る力など備わっていなかったのです。

その私を救うために、南無阿弥陀仏のお名号となり、すでに私を喚び続けて下さったはたらきが、私に届けられていたのです。

必ず救う。我にまかせよ。

阿弥陀様の願いをいただき、お念仏申す私たちは、私の方でいのちの行き先をあれこれ沙汰する必要はないのです。一切の欲や苦しみから解放されたお浄土に往生生まれる身に、今すでに定めていただいているのです。

だから、そのはたらきにおまかせし、念仏申すお互いは、やがてお浄土でお会いすることができるいのちであると定まっています。

最晩年の親鸞聖人が、ご門弟へのお手紙で、

「お浄土でかならずかならずお待ちしておりますよ。」

と仰ってくださるのは、そのご門弟だけではありません

ん。阿弥陀様の願いにおまかせし、お念仏申すこの私へ向けられたお言葉であつたとお聞かせいただくのです。

☆☆☆☆☆☆

肩の痛みは、治療を受けることでやがて治ることでしょう。しかし、老いと死は確実にやってきます。どんなに目を背けても、健康と若さに執着しても、避けて通ることはできないのです。どんなに目をそらしても、大切なこの別の悲しみをなくすことはできないのです。

樹木希林さんのように、欲を手放して生きることが叶うならば、どんなに素晴らしいでしょう。

でも、死ぬが死ぬまで欲から離れられない私には、すでに阿弥陀様の願いが届けられてありました。私のいのちを必ず救うとの願いが、南無阿弥陀仏のお名号となつて、私を喚んでくださっているのです。

その願いをお聞かせいただき、お念仏申すそのままに、私のいのちの行き先は定まっています。先に命終えていかれる方とまたお会いすることのできる世界が、私たちには示されてありました。

その願いのよろこびを、今いただくことができるのが、お念仏申す人生なのです。